



週間情報



No.0736

発行日 令和7年9月24日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 違反是正支援アドバイザー制度を活用した「違反是正研修会」を実施

愛媛県消防長会（愛媛）

愛媛県消防長会では、令和7年7月30日（水）、8月4日（月）、27日（水）の3日間、3ブロック（東予地区（今治市消防本部）、中予地区（伊予消防等事務組合消防本部）、南予地区（宇和島地区広域事務組合消防本部））に分けて、立入検査を実施している職員を対象とした「違反是正研修会」を実施しました。

この研修会は、違反是正支援アドバイザー制度を活用した研修会を行うことで、違反是正の知識および技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、合計114人の職員が参加し、同アドバイザーを関係者に見立てながら、是正指導までの一連の流れを実践形式で行い、未把握対象物へのアプローチ方法について学ぶことができました。

今後も、県内の予防技術の向上に尽力するとともに、オール愛媛で安全・安心に寄与できるように努めてまいります。



【各研修会の様子】

行事

◆ 新庁舎の開署式を挙げる

北秋田市消防本部（秋田）

北秋田市消防本部では、令和7年9月10日（水）、阿仁分署新庁舎の開署式を挙りました。

この新庁舎は、旧施設の隣接地に建築し、大規模地震にも耐えうる耐震性を備えたほか、仮眠室の個室化と車いす使用者にも配慮した「みんなのトイレ」を設けています。

また、外観は、周辺施設との調和を意識した色調とし、内装に木材を多く使用することで、ぬくもりのある空間を実現しています。

今後も、住民の安全・安心な暮らしを守るため、職員一同で地域防災力の向上を目指してまいります。



【開署式の様子】



【新庁舎】

訓練

◆ 地元消防団・自主防災会と資機材取り扱い合同訓練を実施

駿東伊豆消防本部（静岡）

駿東伊豆消防本部では、令和7年8月31日（日）、当消防本部清水町消防署において、「防災の日」を迎えるに当たり、地元消防団・自主防災会と震災時に活用する資機材取り扱い合同訓練を実施しました。

当日は、ロープワークをはじめ、消火器、チェーンソー、可搬消防ポンプ、発電機などの機能、取り扱い要領、使用後の手入れ方法などについて説明し、非常に有意義な訓練となりました。

また、参加者同士で意見交換を活発に行い、「顔の見える関係」をより一層、構築することができました。

今後も、地元消防団・自主防災会との合同訓練を継続し、地元消防力の強化・向上に努めてまいります。



【ロープワーク訓練】



【可搬消防ポンプ機能確認】

◆ 「諏訪広域消防本部受援訓練」を実施

諏訪広域消防本部（長野）

諏訪広域消防本部では、令和7年9月1日（月）、長野県庁で実施した「県災害対応図上訓練」と同時進行で、「諏訪広域消防本部受援訓練」を実施しました。

当日は、共通した被害想定を付与し、土砂災害および大規模地震災害の発災初期における行動確認と緊急消防援助隊および長野県消防相互応援隊の応援要請スキームを図上訓練方式で確認しました。

また、長野県庁に派遣した連絡調整員と災害情報に係る連絡を行うなど、より実災害に近い形で実施しました。

今後も、本訓練で得た課題を各種計画に反映するとともに、大規模災害対応に必要な備えに万全を期し、圏域住民の安全・安心の確保に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 解体中の耐火造共同住宅で実践的な消防訓練を実施

村山市消防本部（山形）

村山市消防本部では、令和7年9月1日（月）、2日（火）、4日（木）、5日（金）の4日間、解体中の耐火造共同住宅を活用した実践的な消防訓練を実施しました。

当日は、火災時において施錠されたドアの破壊、屋内進入、要救助者の検索救助訓練を行うとともに、建物倒壊時に救出路を確保するためのコンクリート破壊訓練を行いました。

検索救助訓練では、スモークマシーンによる視界不良下において、現場さながらの訓練を実施することができ、通常の訓練では得られない貴重な経験となりました。

実際の建物を活用した訓練は、より現場に即した活動を行うことができ、消防技術の向上に効果的です。今後も、この貴重な経験を活かし、市民の安全・安心を確保するとともに、迅速な消防活動につなげてまいります。



【訓練の様子】

研修

◆ 「消防無線通信運用勉強会」を実施

那覇市消防局（沖縄）

那覇市消防局では、令和7年8月26日（火）、「消防無線通信運用勉強会」を実施しました。

この勉強会は、令和7年緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練に先立ち、無線通信の運用に関する知識と技能の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、沖縄県消防学校の教官を講師としてお招きし、無線に関する法律の基礎知識や現場での無線運用方法について、訓練を交えながらご講義いただき、非常に実践的な勉強会となりました。

今後も勉強会を継続し、職員の知識・技術の向上に努めてまいります。



【勉強会の様子】

◆ 「下水道施設に関する座学研修」を実施

豊田市消防本部（愛知）

豊田市消防本部は、令和7年9月1日（月）、「下水道施設に関する座学研修」を開催しました。

この研修は、他市で発生している下水道に起因する道路陥没事故や死傷事故を受け、下水道災害への対応能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、豊田市役所上下水道局職員を講師としてお招きし、多くの職員が参加できるよう、会場とWeb会議システムを活用したハイブリット形式で行い、下水道の概要、下水道管路の特性や危険性、必要な安全対策について学ぶことができました。

今後は、同市役所上下水道局職員と合同で行う、下水道管路からの救助訓練を計画しており、実践的な対応力の向上と連携強化に努めてまいります。



【研修の様子】



【研修資料抜粋】

◆ 「消防広報研修会」を実施

佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部（千葉）

佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部では、令和7年9月4日（木）、「消防広報研修会」を実施しました。

この研修会は、社会の変化や情報環境の変化に対応した、より戦略的で多角的な消防における広報のあり方などを学ぶことを目的として実施したものです。

当日は、当消防本部職員のほか、千葉県消防長会総務委員会所属消防本部職員の方にも参加していただき、横浜市消防局から御所脇佑介氏を講師としてお招きし、戦略的広報、SNSなどを活用した多角的情報発信、財源確保の方法、採用促進、民間業者へのアプローチ方法や調整方法などの具体的かつ実践的な取り組みなどについてご講義いただき、大変有意義な研修会となりました。

今後も、「戦略的広報」に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 「ハラスメントに関する職員研修会」を開催

北アルプス広域消防本部（長野）

北アルプス広域消防本部では、令和7年9月5日（金）、令和7年度職員研修会の一環として、「ハラスメントに関する職員研修会」を開催しました。

この研修会は、各種ハラスメントに関する正しい認識と知識を習得し、ハラスメント行為の根絶を図るとともに、職員一人一人が安心して働き、その能力を十分発揮できる職場環境を作ることなどを目的として、開催したものです。

当日は、北アルプス広域連合が加入する長野県市町村職員互助会の講師派遣事業を活用し、一般社団法人日本産業カウンセラー協会 上信越支部から、経験豊富なカウンセラーを講師としてお招きしました。

講義には、消防職員を中心に75人が参加し、ハラスメントに関する基礎知識から予防のための行動計画に至るまで、グループワークを交えながらご指導いただき、貴重な学びを得ることができました。

今後も、ハラスメントのない職場環境を作るとともに、職員が十分に能力を発揮し地域の安全・安心への貢献に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 「土砂災害に関する職員特別教養」を実施

上川北部消防事務組合消防本部（北海道）

上川北部消防事務組合消防本部では、令和7年9月9日（火）、「土砂災害に関する職員特別教養」を実施しました。

この教養は、職員の災害対応力と防災知識の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、旭川市消防本部の職員2人を講師としてお招きし、「がけ崩れ」、「土石流」、「地すべり」など災害の種類や発生メカニズム、初動活動の要点、二次災害を防ぐ安全管理のポイントについて、詳しくご講義いただきました。

また、実際の災害対応例もご紹介いただいたほか、訓練映像の視聴を通じて、災害発生時の初動対応、要救助者の救出活動の流れ、連絡体制の確立について、実践的に学ぶことができました。

参加者から、「映像で具体的な動きを理解することができました。」、「現場経験に基づく話が実務に役立ちました。」との声を聞くことができました。

今後も、防災対応力の強化に努めてまいります。



【教養の様子】

そ の 他

◆ 救急活動協力者へ消防総監感謝状を贈呈

東京消防庁（東京）

東京消防庁千住消防署では、令和7年9月4日（木）、救急活動協力者（保育園で勤務する看護師）に対して、消防総監感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年8月7日（木）、通勤途上の多くの乗客が行き交う東武伊勢崎線北千住駅のホーム上で倒れ心肺停止となった女性に対し、救急活動協力者が容態観察と駅員に119番通報およびAEDの搬送を依頼した後、AEDを活用した除細動4回と胸骨圧迫を行い、救急隊が到着する前に呼吸、脈拍を回復させたものです。

救急活動協力者は、「朝の混雑した中でしたが、呼吸をしていなかったのも心臓マッサージを行いました。看護師の知識と技術を活かしてよかったです。」と笑顔で語っていました。



【贈呈の様子】



【贈呈式後の記念撮影】

◆ AED設置施設の山小屋において救急講習を実施

高山市消防本部（岐阜）

高山市消防本部では、令和7年8月28日（木）、29日（金）、9月1日（月）の3日間、北アルプスエリアのAEDが設置されている山小屋（槍平小屋、南岳小屋、槍ヶ岳山荘、西穂山荘）スタッフを対象に救急講習を実施しました。

山岳地という特殊な環境で心肺停止となった場合は、その場に居合わせた人の救命処置が大切であり、過去には、心肺停止となった登山者に対して、山小屋のAEDを活用したことで、一命を取り留め、社会復帰された事例もあります。

当日は、緊急時に備えるため、胸骨圧迫やAEDの使用方法を熱心に学んでいただきました。

今後も、岳人の安全・安心を守る山小屋スタッフに継続して受講していただけるよう、努めてまいります。



【槍ヶ岳山荘での講習の様子】

◆ 台湾内政部消防署などの職員に対して研修などを実施

仙台市消防局（宮城）

仙台市消防局では、令和7年9月1日（月）、2日（火）の2日間、視察のため来訪した台湾内政部消防署などの職員に対して、研修などを実施しました。

この視察は、国土の約3分の2が山岳や丘陵地である台湾が、大船渡市林野火災での経験や教訓を学ぶことを目的として実施したものです。

当日は、緊急消防援助隊としての活動状況や現地で使用した遠距離送水車などの紹介と当消防局の施設・訓練場などを見学していただいたほか、被災地である大船渡地区消防組合消防本部の協力により、延焼地域を巡りながら当時の差し迫った状況をご説明いただくなど、林野火災における教訓を伝える貴重な機会となりました。

また、視察中には、台湾内政部のレスキュー隊員から令和5年に発生したトルコ・シリア地震での活動事例を紹介していただき、お互いの知見を深めることができました。

今後も、大規模災害活動時の教訓を広めるとともに、国際的な協力関係のさらなる発展につながるよう、尽力してまいります。



【視察の様子】

◆ 「みんなの救急デー２０２５」を実施

小山市消防本部（栃木）

小山市消防本部では、令和７年９月６日（土）、「救急の日」を含む「救急医療週間」を迎えるに当たり、「みんなの救急デー２０２５」を実施しました。

このイベントは、住民との交流を深めることで、救急医療に関する理解と知識を深めていただくことを目的として実施したものです。

当日は、体験コーナー（応急手当・はしご車搭乗）を設けたほか、広報活動（救急車適正利用、熱中症予防、マイナ救急、予防救急）や車両展示（消防車・救急車）を実施しました。



【車両展示の様子】



【応急手当体験の様子】

◆ 救急フェスタを開催

豊中市消防局（大阪）

豊中市消防局では、令和７年９月６日（土）、救急医療週間を迎えるに当たり、消防署の一部を開放して「救急フェスタ」を開催しました。

このイベントは、若い世代に対して、救急医療や応急手当の普及啓発を図ることを目的として実施したもので、市こども未来部と連携して母子手帳アプリへの記事掲載などを行いました。

当日は、親子で楽しめるクイズ形式で救急知識の普及を行ったほか、１１９番通報時にスマートフォンを通じて指令センターと映像のやりとりができる「ＬＩＶＥ１１９」の実演や救急隊による救急事案の展示訓練などを実施しました。



【救急フェスタの様子】

◆ 「電話リレーサービスとヨメテルを活用した実演説明会」を開催

明石市消防局（兵庫）

明石市消防局では、令和7年9月7日（日）、救急医療週間の一環として、市内の総合福祉センターにおいて、公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会と関係団体のご協力のもと、聴覚言語障がい・難聴の方を対象とした、「電話リレーサービスとヨメテルを活用した実演説明会」を開催しました。

当日は、聴覚言語障がい・難聴のある方のほか、その家族や障害者支援団体にもご参加いただき、救急医療相談（＃7119）、119番通報を実施する際の電話リレーサービス、ヨメテルの活用方法について実演しながら説明し、救急医療相談や電話リレーサービスなどの普及啓発を図ることができました。

また、同聴覚障害者協会による電話リレーサービスなどの利用を希望する参加者に対して、加入手続きサポートも行いました。



【説明会の様子】

◆ 「うるま市市制施行20周年記念事業・救急フェア2025」を開催

うるま市消防本部（沖縄）

うるま市消防本部では、令和7年9月7日（日）、イオン具志川ショッピングセンターとサンエー石川シティにおいて、「うるま市市制施行20周年記念事業・救急フェア2025」を開催しました。

当日は、消防協力者表彰と事業所に対する「うるま市ゆいまーる救急ステーション」の認定が行われたほか、消防団員でありタレントとしても活動する、くだかまり氏を一日救急隊長に委嘱し、救急車の適正利用、応急手当の重要性、＃7119について広報していただきました。

また、オープニングで幼年消防クラブの園児が演舞を実施し、会場を盛り上げていただいたほか、各会場において、パネル展示、市民健康相談、応急手当体験、救急車などの展示を行い、多くの市民が訪れ盛況に終えることができました。



【イベントの様子】

◆ 「救急の日イベント」を実施

松本広域消防局（長野）

松本広域消防局では、令和7年9月9日（火）、丸の内消防署において、幼稚園児を対象とした、「救急の日イベント」を実施しました。

このイベントは、予防救急の普及・啓発を図ることを目的として実施したものです。

当日は、晴天にも恵まれ、職員が「救急の日」や寄贈救急車「みさお号」について紹介した後、ふたつの「大切なおまじない」として、①救急車を呼ぶ際の番号「119」と②交通事故を防ぐための合言葉「手を挙げて、右見て、左見て、右見て」を園児に伝えました。

また、救急車の洗車体験や防火服を着用してはしご車のバスケット搭乗体験を行い、元気な園児たちは楽しく救急について学ぶことができ、貴重な1日となりました。

今後も地域と連携し、「防げる事故」を減らすための啓発活動に努めてまいります。



【洗車の様子】



【集合写真】

◆ マイナ救急実証事業の広報活動を実施

水戸市消防局（茨城）

水戸市消防局では、令和7年9月9日（火）、「救急の日」の一環として、ＪＲ水戸駅南口において、10月1日から全国で一斉に開始されるマイナ救急実証事業の広報活動を実施しました。

当日は、市関係各課職員とマイナンバー制度ＰＲキャラクター「マイナちゃん」も参加し、総勢30人体制で広報物品の配布および街頭広報を実施して、多くの市民の方に受け取っていただき、マイナ救急実証事業への理解促進につなげることができました。

今後も、市民の皆さまに円滑な救急搬送につながるマイナ救急実証事業の広報活動を継続するとともに、マイナ保険証の利用登録と携行について、関係各課と連携しながら取り組んでまいります。



【街頭広報と広報活動の様子】



【集合写真】

◆ 「一次救命処置技術指導会」を実施

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部（石川）

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部では、令和7年9月11日（木）、救急医療週間における啓発行事の一環として、志賀町地域交流センターにおいて、管内の事業所などを対象とした、第12回「一次救命処置技術指導会」を実施しました。

この指導会は、心肺蘇生法およびAEDの使用に関する知識・技術の向上を図ることを目的として、毎年実施しているもので、今回で12回目の開催となります。

当日は、7チームが参加し、救命処置における正確性や迅速性を競い合いながら、日頃の訓練成果を披露しました。

今後も、救急に関する普及啓発活動を積極的に取り組み、地域の救命率向上を目指してまいります。



【指導会の様子】



【最優秀賞 志賀高校】

国等の動き

消防庁通知等

◆ エムボックスに関する情報提供について

（事務連絡、令和7年9月10日）

消防庁救急企画室から各都道府県消防防災主管部（局）あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

令和6年8月14日（日本時間8月15日）、エムボックス（令和5年5月26日に「サル痘」から「エムボックス」に感染症法上の名称が変更されたもの）について、世界保健機構（WHO）が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」に該当するとの宣言に伴い、「エムボックスに関する情報提供について」（令和6年8月16日付け消防庁救急企画室事務連絡）にて情報提供したところです。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/250910_kyuuki_01.pdf）に掲載されています。

【問合せ先】

連絡先 消防庁救急企画室

担当 金子補佐、森係長、高山事務官

TEL：03-5253-7529

E-mail：kyukyuanzen@soumu.go.jp

報道発表

◆ 消防分野における最新技術活用検証事業に係る情報提供依頼（RFI）

（令和7年9月12日、消防庁）

消防庁では、令和7年度より、関係省庁（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局、内閣府防災、文部科学省、経済産業省）や研究機関等（国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人防災科学技術研究所、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構）、消防機関と連携し、「消防分野における最新技術活用検証事業」を実施することとしました。

本事業は、内閣府事前防災対策推進費を活用して、スタートアップ企業等が開発した最新技術のうち、消防活動に活用できる可能性があるものについて、消防機関とのマッチング、現場検証、横展開を通じて、消防分野への最新技術導入に係る手法の確立を図るものです。

このたび、本事業の技術シーズに関する情報提供の依頼（RFI：Request for Information）を以下のとおり実施することとしましたのでお知らせします。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/gisen250912.pdf>）に掲載されています。

【お問合せ先】

消防庁技術戦略室

中嶋、西田、岩井、佐々木

電話：03-5253-7541

e-mail：gisei2_atmark_ml.soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。送信の際には、「@」に変更してください

◆ 令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰（消防関係）

（令和7年9月12日、消防庁）

令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰（消防関係）受賞者は、次のとおりです。

防災功労者内閣総理大臣表彰受賞者 31団体

（受賞者名等は、別紙の受賞者名簿に記載されています。）（別紙省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/250912_soumu_1.pdf）に掲載されています。

連絡先

消防庁総務課

向山政策評価広報官・渡部係長・行形事務官

TEL 03(5253)7521 内線 42172

Mail fdma-soumukahyoushou_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。送信の際は、「@」に変更してください。

情報提供

◆ 日本CBRNE学会／NBCR対策推進機構共同主催シンポジウムの開催

主催：特定非営利活動法人NBCR対策推進機構、一般社団法人日本CBRNE学会

後援：全国消防長会

目的：「生物（B）災害と新興・再興感染症対策」をテーマとして、消防職員、自衛隊員、自治体職員、防災専門家、医療従事者の専門家が一同に会する場所において情報を共有するとともに、関連企業や一般市民に対して、感染症対策の必要性について普及啓発を行ってまいります。

1 実施日時

令和7年11月3日（月祝）10：00～17：00

2 会場（対面およびWeb（オンデマンド）配信）

国立オリンピック記念青少年総合センター（小田急線「参宮橋駅」より徒歩7分）

3 対象者

消防職員、防災専門家、医療従事者、自衛隊員、警察、大学関係者などの専門家に加えて、広く興味ある企業、一般市民を対象とする。

4 申し込み方法

シンポジウムに参加を希望される方はホームページから登録またはお問い合わせ先にご連絡ください。（参加費については、申込者にお知らせする銀行口座に振り込んでいただきます。）

5 参加費（事前登録をされた消防庁関係者は会員料金といたします。）

会員5,000円、非会員6,000円（会場参加、当日の昼食、お茶、お菓子代を含みます。）

会員5,000円、非会員6,000円（オンデマンド参加）

6 プログラム（発表構成）

(1) 開会挨拶（10：00～10：05）

石井正三（日本CBRNE学会理事長）

(2) 講演1（10：05～10：45）

講師 青野茂昭（国士舘大学体育学部スポーツ医学科）

「病院内感染症対策」

(3) 講演2（10：50～11：30）

講師 加来浩器（防衛医科大学校防衛学研究センター長、教授）

「感染症の基礎と対策 ―ポストコロナの今、知っておきたいこと―」

(4) 昼食および会員交流会（11：30～13：30）

(5) 講演3（13：30～14：10）

講師 福崎智司（三重大学大学院生物資源学研究科教授）

「環境衛生に役立つ安全な新規次亜塩素酸の利用法」

(6) 講演4（14：15～14：55）

講師 佐々木広一（広島国際大学保健医療学部教授）

「救急活動における環境衛生 ―救急活動での二次感染防止と環境衛生の重要性―」

(7) 講演5（15：00～15：40）

講師 木下学（防衛医科大学免疫・微生物学講座教授）

「ウイルス感染症も含めた新興・再興感染症に対する最新対策」

(8) 総合討論（15：40～16：40）

(9) 閉会挨拶（16：40～16：50）

【お問い合わせ先】

事務局：NBCR対策推進機構 東京都港区赤坂4-9-25 新東洋赤坂ビル3階

担当：岡部・遠藤・石原

HP: <https://nbc-taisaku.com>

TEL:03-5829-6187 FAX:03-5829-6197 E-mail: info@nbc-taisaku.com

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcaj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 木原

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。